

会 議 録

1 会議名

平成30年度第3回上越市社会教育委員・上越市立公民館運営審議会委員会議

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 平成30年度事業評価結果について（公開）

(2) 平成31年度補助金交付予定事業について（公開）

3 開催日時

平成31年2月25日（月） 午前10時～午前11時25分

4 開催場所

上越市教育プラザ 研修棟 大会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：池田洋子、石井陽子、上原みゆき、江村奈緒美、大越さとみ、小林榮、惣塚泰次、土屋美枝、樋口嘉和、保坂和彦、宮澤忠明、渡邊恵美

・事務局：社会教育課 小池兼一郎課長、川上裕一参事、笹川桂一中央公民館長、横手正実副課長、福山亮副課長、加藤英樹係長、山本栄美係長、北澤卓哉係長、松井理江主任、丸田康德主任、片所大河主任、丸山聖乃主事、池亀睦主事、古澤由依主事

8 発言の内容（要旨）

(1) 開会

(2) 保坂委員長挨拶

(3) 議 事

① 平成30年度事業評価結果について（公開）

— 資料 No. 1 に基づき事務局説明 —

池田委員：上越市公民館のつどいについて、当委員が9人参加しているにも関わらず、4人しか事業評価シートを提出していない。事業評価の意識をしっかり持って参加してほしい。

保坂委員長：謙信KIDSプロジェクトについて、小学校低学年対象の講座は小学1～3年生が参加することとなっているが、子どもの発達には大きな差があり、運営上配慮を要する場面が多いと思う。

宮澤委員：小学1年生は一人では動けない、振り返りシートも一人で書くことは難しいなど、スタッフのフォローが必要である。昨年「しょく」の講座へ事業評価に行ったが、大学生ボランティアがもっと積極的にサポートできると良いと感じた。また、「そば」の講座はアレルギー等の問題も出てくるが、マニュアル作成などの対応はどうなっているか。

事務局：大学生ボランティアについては、上越教育大学の「ボランティア体験」にエントリーして募集を行っている。今後も大学生から多く講座に参加してもらいたいと思っている。

アレルギーについては、申込みの際、他の心配事と合わせて記載できるように欄を設けている。また、そのほか食品を扱う講座についても、開催案内文書で再度周知を行っている。なお、団体へ委託している講座も同様に対応している。

池田委員：来年度「そば」の講座がなくなるということだが、食に関する講座への申込率は他の講座と比べて高いか。また、小学校低学年対象の講座では、指導者が足りない場面も見受けられた。特に小学1年生がいるグループ活動では、1グループに必ず指導者が1人付くような体制としてほしい。

事務局：食に関する講座よりも体を動かしたり、ものづくりをしたりする講座の方が人気は高い。

惣塚委員：先日、地域青少年育成会議で親子対象の事業を行い、やはり小学校低学年の対応には配慮が必要だと感じた。食育の観点からも、地元の郷土料

理等を教えるのは大事なので、継続するためにより一層の工夫が必要である。

事務局：小学校低学年対象の講座は人気が高い。今後も社会教育指導員を中心に、講座中には子どもの発達に合わせた対応を心がけ、自分が生まれた上越に愛着が持てるような事業を推進していきたい。

樋口委員：今回は「そば」の講座だけが事業評価の対象であったが、評価対象を広げてもらえると評価に行ける回数も増えてありがたい。

事務局：来年度は評価対象の講座を増やし、より多く事業評価に来ていただけるよう対応したい。

池田委員：上越市美術展覧会についてはシャトルバスの周知が足りず、利用が少なかったように感じた。また、会期中に来場者受付にいるアルバイトにシャトルバスのことを聞いても、すぐに案内ができなかった。もっと目的意識を持つような指導が必要である。

事務局：来年度実施する際は、アルバイトにも事業に関する情報の徹底・周知を行い、来場者が快適に作品鑑賞してもらえる環境作りに努めたい。

上原委員：シャトルバスに関してもう少し周知がされていれば、利用する人は多いと思う。休日だけでなく平日もシャトルバスを運行すれば、高齢者でも2会場間を移動する際に有効なので、運行ルートを受付等で配布し掲示すると良い。

事務局：毎年広報上越や13区の防災行政無線を使って周知を行っている。今後は、他の様々な媒体を通じた周知を検討していきたい。

保坂委員長：小林古径記念美術館が現在改修工事を行っているが、ミューゼ雪小町よりオーレンプラザに近いため、会場のひとつとして検討することは可能か。

事務局：展示スペースが課題になってくるかもしれないが、参考にさせていただき、今後の運営委員会で協議していきたい。

池田委員：元気の出るふるさと講座の高田区へ事業評価に行ったが、現地見学のみ参加する受講者が見受けられた。5回の連続講座であること、また3年

連続で参加してほしい講座であることを募集時にまず周知し、意識してもらうことが大切だと思う。

事務局：特に講座内容を地域の歴史とすると、自らの学習で終わってしまう受講者がたまに見られる。継続して受講してもらえるよう周知を行っていきたい。

大越委員：今年度の受講者の中で、来年度も受講したいという割合はどの程度か。

事務局：アンケート等はとっていないため、確認はしていない。

小林委員：行動する人づくりに該当する事業のため、人づくりにつながるカリキュラムを構成していかなければならない。

事務局：担当する職員の力量も関係するため、担当者だけでなく管理職も含めて検討していきたい。

渡邊副委員長：各回の活動内容をまとめたものを受講者に配布すると、活動を振り返ったり、自身の学習の意欲を高めたりすることにつながる。可能であれば、毎回配布できるとよい。

江村委員：2年目以降は活動内容が難しくなり、受講者が少なくなる傾向があるが、残った少数の受講者が核となり、活動していくことも重要である。そういった受講者への支援を大切にしてほしい。

池田委員：高田地区公民館で長距離を歩く事業があり、年配の方は全行程を歩くことができない事案があった。誰でも歩くことができるような計画の配慮と募集の際の周知が必要である。

事務局：誰でも歩くことができるよう配慮していく。また、参加者が振り返り、ファイリングできるような資料作りを検討していきたい。

保坂委員長：地域のことを知り、地域課題に向けて活動することは社会教育の重要な部分でもあることから、一歩でも二歩でもより良い方向に向けた事業を行ってほしい。

② 平成31年度補助金交付予定事業について（公開）

— 資料 No. 2 に基づき事務局説明 —

小林委員：岩内町交流事業について、予算面や少子化が年々課題になってきていると思うが、今後の事業の在り方について聞かせてほしい。

事務局：平成 27 年に事業の在り方を検討したが、岩内町から継続したいとの意向があり、現在も継続している。岩内町も当市と同様、予算が厳しい状況にあるが、子どもたちにとって有益な事業であることから、互いに工夫しながら今後も継続していきたい。

渡邊副委員長：市子ども交流活動支援事業補助金について、対象団体にある「文化活動団体」の定義を教えてください。

事務局：事務局では、活動分野は特定しない予定だが、例えば茶道等の団体を想定しており、スポーツ団体は対象としていない。申請する団体に所属している子どものみではなく、地域の子どもたちを対象とした交流活動を行うことで対象となる。地域で子どもを育てる団体の支援ができる補助金となるようにしていきたい。

渡邊副委員長：1 団体の限度額を教えてください。

事務局：町内会の子ども会等の単位団体は 1 万円、地区子ども会連絡協議会及び地域青少年育成会議等の地区を単位とした団体は 10 万円、文化活動団体も同様の基準で 1 万円と 10 万円としている。

渡邊副委員長：5 人以上であれば、申請して活動しようとする団体が出てくると思う。

③ その他

惣塚委員：平成 31 年度に向けた事務事業の見直しが行われたと思う。決定されてから報告を受ける場合が多い。本会議においても、企画・立案の報告前に審議する会議として開いてほしい。

事務局：11 月に行われた教育委員との意見交換会でも話に出たが、予算を策定する前に審議していただけるよう開催日を調整していきたい。

(4) その他

特になし

9 閉 会

10 問合せ先

上越市教育委員会社会教育課

TEL : 025-545-9245 (内線 1260)

E-mail : shakaikyouiku@city.joetsu.lg.jp

11 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。